令和6年度学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	54	学校名	静岡県立榛原高等学校	記載者	梶山 佳明
------	----	-----	------------	-----	-------

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	個別最適な学びを通じて確かな学力を高めるとともに、グローバルな探究活動を行う	<ul style="list-style-type: none"> ○教員は教科等を理解できるよう指導していると思う生徒90%以上 ○自分が行うべき家庭学習ができている生徒80%以上 ○個人端末を効果的に活用した学習等をする生徒90%以上 ○探究活動等を通して思考力・表現力・協働力を高めた生徒85%以上 ○県内外と連携したグローバル事業（研修、発表等）を実践している ○英語4技能を高められた生徒75%以上 ○新着図書情報等を毎月発信 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員と生徒との人間関係ができていることや、教員の様々な方面からの努力が成果として表れていると思う。 ・学校運営協議会に参加し、教員は人員減や働き方改革の限られた時間の中で最大限の取組をしていることが理解できた。 ・探究活動に注力することは、スクール・ミッション達成のために必要なことである。一方で、模試やテストは点数や偏差値で数値化されるが、探究は成果、成長が数値化されるものではない点で難しさを感じる。スポーツで例えば、陸上競技と採点競技（体操など）の違い。探究活動の成果を保護者や地域、中学校、OBなどに見える化し生徒の意欲向上にも繋げて欲しい。 ・榛原高等学校の教員による細やかな教科指導やサポートを生徒や保護者も実感し、学校の特色として浸透してきているように感じた。 ・地域リーダー育成プロジェクトは、今後も参加しやすい仕組みや興味のあるテーマで行ってほしいと思う。
イ	一人ひとりの進路希望実現のため、系統的かつ個に応じた進路指導・支援を行う	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導に満足している生徒85%以上 ○学びの基礎診断や模擬試験における結果 前年度比アップ ○卒業生の国公立大学合格30%以上 ○探究活動等を活かして進学する生徒20人以上 ○理数探究の内容が満足できるレベルと判断する生徒75%以上 ○「進路勉強会」の保護者満足度平均80%以上 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対する進路指導は、教員が熱心に対応している状況が保護者にも伝わってきて、非常に満足している。また、保護者への進路勉強会も忙しい親の状況を理解して、動画視聴などオンデマンドで対応できる環境に変更したことも評価できる。 ・榛原高校の特色である探究活動を活かした進路選択が少しずつ増えていることである。これをぜひ大きくアピールしていった方が良いと思う。 ・理数探究において、生徒全員で分担し探究していく体制を作る必要性を感じており、一人一人が十分な役割分担をすることが重要。 ・「進路勉強会」において動画も活用し、利便性を向上させたことは評価できる。 ・探究に力を入れるほど教員の負担が増加

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
					<p>するという話があった。探究で進学を目指す生徒と従来からの受験で進路を目指す生徒とのコース分けは、一定の時期で必要なのかもしれない。※長期的には探究クラスを作るなど。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真摯に取り組んできた成果が出ていると感じた。 ・昨今では総合型選抜や学校推薦型選抜の募集枠が増え、年内出願を希望する生徒が全国的に増えている。生徒の学力や進路意識が多様化する中、榛原高校では生徒の面談を何度も実施して希望を確認し、それを個別指導等に活かしてきたことが「進路指導に満足している」と回答した生徒、保護者の割合がともに85%を超えるといった満足度の高さに繋がったのだろうと思った。
ウ	<p>規範を守り、進んで諸活動に取り組み、自己管理と礼節、他者を尊重する心を育む教育を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○校内で端末機器を利用規約に沿って使用している生徒95%以上 ○期限を守っている生徒90%以上 ○校内外においてあいさつができている生徒95%以上 ○教員は生徒の個性を尊重していると思う生徒85%以上 ○課外活動に積極的に参加している生徒85%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動の一環として行っている街頭指導において、生徒が立ち止まって礼儀良く挨拶する姿は、榛高生の礼節、他者を尊重する心が育まれている表れであると評価する。 ・交通ルールの面で、交差点での一時停止について、朝の見守りで警察から指導を受ける生徒を何度か見かけた。自分の命を大切にする指導をお願いしたい。 ・課題を提出しない生徒がいるとの話があったが、約束や期日を守ることは社会人としての常識であり、厳しく接していただきたい。 ・将来、どの分野に進んだとしてもルールを守ることは必要最低限なので、今後も続けていって欲しい。
エ	<p>安全で安心な学校生活を保ち、整った環境づくりを教職員・生徒ともに行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○校内の清掃・整頓が行き届いていると思う生徒90%以上 ○教職員は生徒の健康・衛生管理を適切に行っていると思う生徒90% ○教育相談に満足している生徒80%以上、保護者80%以上 ○いじめ、体罰、重大事故0件 ○安心して学校で生活できる施設・環境であると思う生徒90%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の生徒の状況に応じて、教員が丁寧に対応している。いじめ、体罰等が0件であることは評価に値する。校舎が古い。 ・いじめの未然防止は大切である。ただ小中学校では常にいじめがあることを前提に考え、常にその兆候を早い段階でとらえて初期対応を迅速に行うことを心掛けている。高等学校でも同様なスタンスや対応が必要であると思う。 ・真摯に取り組んできた成果が出ていると感じた。 ・全生徒に対する1分間カウンセリング用に時間を作り出すことは大変なことだと思うが、困っている生徒を早期に把握することで対応できることが見つけやすくなると思う。 ・生徒にとっては学習環境が整っていることが、何より重要だと思う。

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
オ	教職員の資質向上を協働的に図るとともに、業務の改善を行う	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修テーマ「学校生活空間をデザインする」について協働的に研修した教員 90%以上 ○他教員の授業見学を年2回以上行った教員 85%以上 ○校外研修に参加した教職員 80%以上 ○時間外在校等時間が前年度比で減少した教職員 60%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の授業改善のためには、自己研鑽に加え研修は非常に大事なことで、他教員の授業見学や校外研修の参加率が低いことは問題である。 ・時間外在校時間が前年度より減少した教職員が過半数を超えたことは望ましいことであり、今後もその数字が向上するよう手立てを講じていただきたい。 ・部活動で教員が土日問わず関わって下さり保護者としては感謝しかない。20代から50代まで幅広い年齢層の教員が在籍する中で様々な考え方があり「協働」自体が難しいのではないかと。 ・共通テストの問題を見ると、教科を超えて表やグラフ、情報の読み取りが求められているように感じる。その視点から教科を超えて授業を見合ったり、「情報」をオムニバス形式で実施したりするなどさらなる授業改善に取り組んでいただければと思う。 ・生徒の個に応じたきめ細かな指導や支援は榛原高等学校のウリの一つだと思うが、クラス減もあって教員一人一人の負担は増えていると思う。抜本的な解決策等は見つけにくいと思うが、教員の働く環境改善に向けた努力も大切なことだと思うので、引き続きよろしく願いたい。 ・働き方改革が求められている中で、ワークライフバランスを図りつつも新たに研修等に参加するのは矛盾しているのかも知れなが、無理のない範囲で改善していただきたい。
カ	学校関係者、保護者等とともに教育活動の改善に取り組み、適時に情報を共有・発信する	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会の協議内容を学校運営に活かしている。 ○保護者の学校満足度 90%以上 ○HPやインスタグラムの記事を月平均で15回以上投稿する ○定期的に関覧する保護者 70%以上 ○学校が必要な情報を発信していると思う保護者 95%以上 ○学校広報掲示物を月1回発行 ○一日体験入学、オープンスクール等の満足度 90%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・インスタグラムの導入は、現代の情報伝達のツールとして評価できるもので、Classiとともに、保護者及び生徒に情報発信が適切に行われた。 ・一日体験入学やオープンスクールでの参加者から高い満足度を得たことが受験者の増につながることを期待したい。中学校教員対象の説明会はぜひ継続していただきたい。さらに、中学校の授業参観等、中学校職員との交流も積極的に行っていくことで様々な情報交換ができるのではないかと。 ・学校運営協議会の場合は管理職以外の階層の教員も参加されては如何か。若手教員の意見にも興味がある。